



被災地は僕にとって“学び舎(まなびや)”だった。

【堀田暢・大学受験を中断して来た被災地で、本当に学びたいことを発見】

感謝してもらい、感謝する。

それが涙が出るくらいうれしかった。

【山田峻行・ボランティア活動で“教師”への道を再確認し、大学に復学】



人が喜んでいいる顔を想像すると楽しくなる。

【笠原健太・大学を2年休学し、ボランティア活動に熱中】



自分の存在意味、生きる喜び、

生きる力をここで見出している気がする。

【渡辺真一・高校中退後に大検で入った大学にも馴染めず、ボランティアに】



“自分”と“社会”の接点、 3・11ボランティア活動を通して “生きる意味”を問い直す ——

—— 前作『異国に生きる—日本の中のビルマ人—』に続き、“個人と社会との関係”を問う問題作 ——

3・11の被災地に、「復興に役立ちたい」と全国から集まってきた若者たち。だが、途方もない規模の被害を前に、「助けに来た」という気負いは瓦解する。それでも、被災者たちの「ありがとう」の一言が若者たちの心を捉え、彼らを現場から離さない。

「自分は人の役に立ち、感謝される存在」なのだという自覚に、彼らは“生きていく手応え”“自らの存在意義”を発見していく。



DVD ネット予約申し込み

【価格】個人：3,500円 / 学生：3,000円 / 団体：10,000円 (すべて税込)

予約申し込みは、下記内容を明記のうえメールアドレスまでお送り下さい。ホームページからの予約もできます。

【住所】【氏名】【連絡先】【個人/学生/団体】【部数】【合計金額】

doitoshikuni@mail.goo.ne.jp



www.doi-toshikuni.net